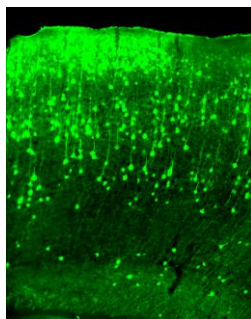
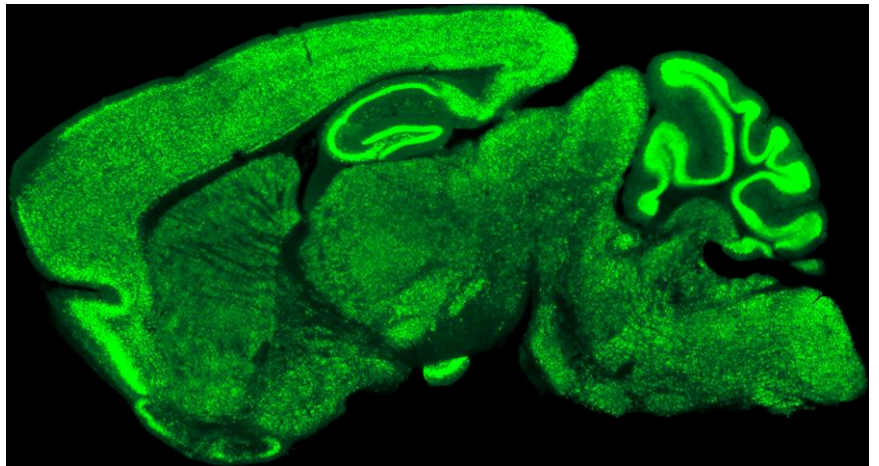
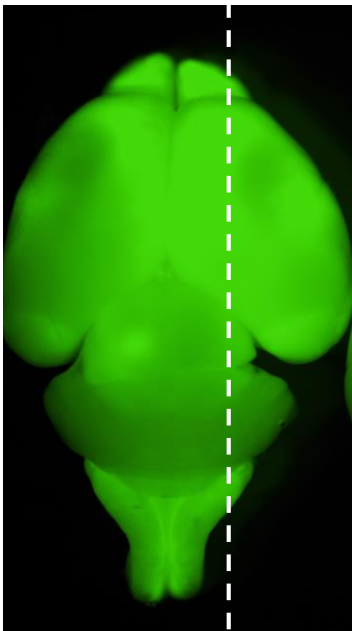




脳神経系の発生・老化・疾患をテーマとした研究、 および、教育の実践

医学部 准教授 桑子 賢一郎

脳を構成する神経細胞（ニューロン）は情報の処理と伝達を担う働きをもち、その機能が失われたり、ニューロンそのものが脱落するとさまざまな精神・神経疾患や神経変性疾患が引き起こされます。われわれは脳神経系の発生や老化に関する基礎研究を展開し、疾患の予防・治療法の開発を目指して日々研究を行っています。最近、血液脳関門を突破する特殊なアデノ随伴ウイルスを用いた低侵襲型遺伝子治療法の開発や神経活動制御を介した脳の老化メカニズムに関する研究を展開しています。また、基礎研究に興味のある医学部学生を広く受け入れてリサーチマインドの育成にも注力しています。実際、学部生でありながら論文の共著者となった学生もおり、今後も学会発表や論文執筆を目指した教育を継続していきたいと考えています。



アデノ随伴ウイルスを静脈注射し、一週間経過したマウス脳

（左）Venus（GFP改変タンパク質）が脳全体で発現している

（右上）左の脳を点線でカットした断面

（右下）脳断面の一部拡大図